

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

11月市議会の日程決まる

11月定例市議会は、11月30日から12月21日までの日程で開催されます。12月6日から8日までの3日間行われる一般質問では、共産党市議団は3名全員（会派代表は田中肇市議）が質問にたち、憲法問題、原発、コロナ、農業問題などについて取り上げ、市の姿勢を問う予定です。

月	日	曜	会議名
11	30	火	本会議
12	6	月	一般質問（会派代表）
	7	火	一般質問（一問一答）
	8	水	一般質問（一括）
	9	木	総務委員会、予算分科会
	10	金	教育民生委員会、予算分科会
	13	月	経済委員会、予算分科会 建設環境委員会（現地視察）
	14	火	建設環境委員会、予算分科会
	17	金	予算委員会
	21	火	本会議（討論・採決）

憲法改悪とめよう！

中国地方でいっせい宣伝 松江でも県議、市議団ら



宣伝する（右から）岩田剛地区委員長、尾村、田中、たちばな、舟木の各氏

日本共産党の尾村利成県議、田中はじめ、舟木けんじ、たちばなふみ各市議らが19日、商店街前で宣伝しました。田中市議は、原発の早期稼働と反対両方の陳情が出る中、住民投票条例制定署名運動を支持し、拡げつつ再稼働反対を貫

く決意を述べました。たちばな市議は、美保基地に空中給油機が配備され軍事基地化が進んでいる、平和憲法まもれの声をさらにあげようと訴えました。舟木市議は、総選挙後、憲法改悪の動きが強まっている、軍拡ではなく9条を活かした平和外交をと訴えました。

尾村県議は「文書通信交通滞滞在費について、共産党は以前から抜本的見直しを国会で繰り返し主張してきた」「税金の使道の最大の問題は、年間320億円、国会議員1人当たり4500万円にもなる政党助成金だ。ここにメスを入れ、廃止する議論を行っていくべきだ」と強調。「日本の政治を変える共闘の道を揺るがず発展させるために力を尽くす」と訴えました。

コロナ禍で保育制度の拡充を

福祉保育労が松江市へ申し入れ

12日午後、市役所で、全国福祉保育労働組合島根支部の対市要求申し入れが行われ、



申し入れる福祉保育労の皆さん

林忠典子育て部長らが対応しました。共産党市議団は要求実現への協力協同の立場で同席しました。

場の状況を訴えました。これに対し、市側が、「1歳児の配置基準改善実施が重要と考えており、全国市長会を通じ、国に要望している」等、文書回答に基づいて施策の説明を行いました。

申し入れでは、①保育労働者へのワクチン優先接種、定期的PCR検査の実施、②保育士の配置基準改善、調理員増員、看護師配置補助、③障がい児及び特別な支援が必要なお子への保育充実策の拡充、④保育関係職員の子どもへの保育所入所の点数加算、⑤給食無償化、⑥保育労働者の処遇改善、⑦保育料無償化の財源を消費税に頼らないこと、7点について、各分会から現

現場からは、「夏の大雨で園の近くの川があふれそうになり、保育士配置基準（0才児3人に1人、1歳児6人に1人）では避難できないと実感して緊張した」等の切実な声が出され、林部長は、「日々の皆さまの努力に敬意を表したい。今後も現場の声を聞いていく」と述べました。

住民投票の成功をめざして

原発ゼロの会が「学習のつどい」を開催

原発ゼロをめざす島根の会は11月14日、労働会館で「島根原発2号機再稼働の住民投票成功のための学習のつどい」



住民投票運動について説明する山崎泰子共同代表

を開催しました。

岡崎由美子共同代表はあいさつの中で、「市長は『市民の意見をいただき、議員との議論を深め、市長として総合的に判断する』と述べているが、具体的には明らかにしていない」とし、住民投票運動に取り組みを決意を述べました。学習会では、共同代表の樋野伸一氏が事故後、毎年通い見続けてきた福島の実状について講演。廃炉問題や生業訴訟、原発汚染水や風評被害などについて解説。十年たっても帰還できない原発事故の悲惨さを語りました。

の説明と行動提起を受け意見交流しました。田中はじめ日本共産党松江市議は議会の状況について説明。署名運動に取り組み意義は大きい。議員団も議会で力を合わせて取り組みと力強く決意を述べました。加盟団体からは、松江保健生協労組、新日本婦人の会、農民連、生健会と次々取り組み決意が表明されました。終わりのあいさつで諸遊克己共同代表は「原発が止まっても電気は足りていた。平和で安全でなければ生業は成り立たない。住民投票を大きく成功させよう」と締めくくりました。